

「すべての人がキーパーソン」

キーパーソン21代表 朝山あつこ

私は、3人の男の子を育てている母親です。長男が中学2年の時に、よく騒がれていた「学校崩壊」を体験いたしました。破壊と暴力と無気力と。それ以来どうして子供たちが 暴れたり騒いだり逆に無気力になったりするのか？ということを考えるようになりました。

戦争中なら15～16歳というと（善悪は別として）兵力として、あるいは弟や妹のめんどろをみたりと、その力を皆から期待されました。

私は、高度成長期に育ちましたが、勉強していい学校に入れば、いい就職ができて、ボーナスでテレビや車を買える、豊かになるためという子供にもわかりやすい単純な目標がありました。

しかし、今の日本の子供たちはどうでしょう？コンビニに行けばおにぎりが売っていて、食べるものに困るということはずありません。学校に通うのもあたりまえです。表面は豊かに見えますが、子供たちはどこか退屈そうです。それでは、今の子供たちに必要なこととは何でしょう？

それは、夢をもつこと、固く言うと自己実現に向っていくことなのだと思うのです。

- どのように生きたいか。
- どんな人間になりたいか。
- どんな仕事がしたいのか。

そのためには、子供たちはもっともっと仕事について知る必要があると感じるようになりました。今の日本の教育のなかでは、受験勉強に多大なエネルギーを注がねばならない状況は続いています。しかし、大半の子供は何のために勉強するのか？何のために学校に通っているのか？将来自分は何をしたいのか？どんな職業があるのか？ほとんどの子供たちは自分の父親の職業すらよく認識していなかったりします。自分の将来の職業や仕事について考える機会もなく、どうしたらよいか分からないままに進路を決めていきます。子供たちにはまだまだ自分の進路を決める力も、よりどころとなるものもないのが実状です。

例えば獣医という仕事をもった方がいたとします。もしその方がその獣医という仕事についての面白いことやその仕事がその方の人生にとってどんなものであるのか、その仕事のもつ社会的な意味などを語ってくれたら、子供たちにとって獣医という仕事が一気に身近なものになります。それはテレビでも映画でも本の中や歴史上の人物でもなく、すぐそこにいる生身の人間だからです。すぐに職業選択につながらなくとも、社会で活躍の方々のお話を子供たちが聞くチャンスがあれば、社会を見る眼、自分を見る眼を育てていくヒントになると考えています。

技能や技量の訓練や資格講習に関する情報はあふれています。しかし、生き方や人生設計といった視点で仕事や職業を考えていく場が必要です。

キーパーソン21という言葉には「21世紀を担う子供たちの心の扉のかぎを握る人」という意味をこめました。

すべての人がキーパーソンです。

だれでも一生のうちで、あの人みたいになりたい。あの人のあの一言が頭に焼き付いてこの道に入った。あの人のあの行動が心に残ってここまでがんばった。と言えるような「生き方」や「職業」を選ぶきっかけになった言葉・出来事・人物の存在があると思います。そんな人生の左右を分けた人、生き方を変えるきっかけとなった人、そんな人を「KeyPerson」と呼びたいと思います。

子供は親と先生と友人という限られた世界の中で育っていきます。

「え？そんな生き方あるの？」

「そんな職業あるんだ！」

「僕にも私にもできるかもしれない。」

そんな気持ちになってくれて、夢や希望や自信がわいてきて、すべては自分自身からはじまるんだ、ということに気づいてくれる人が一人でも増えたらいいなと思っています。

そんな願いから活動をはじめることになりました。

ALL JAPANで子供たちを育てていきたいと本気で考えています。

2000年12月吉日